

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)住吉4丁目ビル新築工事	階数	地上7F
建設地	福岡県福岡市博多区住吉4丁目1番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	930 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,205 時間/年
建物用途	事務所、物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2016年8月1日
敷地面積	1,110 m <sup>2</sup>	作成者	瀬下 哲也
建築面積	873 m <sup>2</sup>	確認日	2016年11月8日
延床面積	5,711 m <sup>2</sup>	確認者	渡辺 健吾



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	138
②建築物の取組み	92
③上記+②以外の	92
④上記+	92

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6

音環境	1.4
温熱環境	3.1
光・視環境	2.7
空気質環境	2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

機能性	2.9
耐用性	3.2
対応性	3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.9

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	1.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

建物外皮の	4.0
自然エネ	N.A.
設備システ	4.0
効率的	1.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

水資源	3.5
非再生材料の	2.5
汚染物質	3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

地球温暖化	3.3
地域環境	2.9
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		その他
<p><b>総合</b></p> <p>汎用性の高いテナントビルを目標として計画した。敷地は角地であり、隣地(1方)に建物がないことから、3面に対して建物の正面の顔となる部分をつくるよう配慮した。1フロアあたり5分割のテナント小割り賃しを可能とする計画のため、空調は個別空調とし冷房・暖房を選択可能な方式としている。</p>		0
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>空調はベリメーターゾーンとインテリアゾーンに分かれ、尚且つゾーン毎に冷房・暖房の選択が可能な空調システムを採用し、室内環境の向上に配慮した。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>執務空間の天井高さを2.8m確保し、快適性を確保した。制震部材を設置し、大地震時の揺れを低減させ、躯体損傷を低減させ、建物耐用年数の向上を図っている。災害時において建物が機能するように配慮し、飲用受水槽に</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>隣地(1方)に建物がないため、3方に対して建物の正面をつくり、屋外階段、設備機器(配管)等が極力見えにくいよう配慮して、周囲の景観に配慮した計画としている。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>建物の適切な断熱性能の確保と、各種設備機器の適切な機種選定を行う。水通りの設備では積極的な節水タイプの選定を行う。照明は全てLED器具を採用し省エネルギー化を図った。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>福岡市の再生水(中水)をトイレの排水等に利用し、水資源の有効利用を図っている。断熱材はノンフロンのもを使用し、オゾン層破壊防止に貢献する計画とした。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>駐輪ラックを利用しやすい位置に配置して、利用促進を図っている。駐車場は身障者駐車場を除いて屋内化することで、敷地内まで車を引きこみ、車道への滞留を防止する計画とした。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される